

『アルコール性肝炎のホント』

～～アルコールは肝臓癌の危険因子～～

肝臓川柳 『アルコール 発癌リスクも あるこーる』



(無理矢理です…)

秋も深まりつつあり、忘年会シーズンも近くなってきましたが肝臓にとっては大敵である暴飲暴食の季節でもあります。アルコール＝エタノールは、肝臓で代謝・分解されます

(すなわちアルコールが入ると肝臓は、いっぱい働くことになります) 通常は、分解酵素の働きで最終的に『水』と『二酸化炭素』に分解されて無害になるのですが、その過程で『活性酸素』や『活性水素』という臓器に障害を起こす物質が出来ます。いくらアルコールが代謝されて無害になったとはいえ多すぎると障害が起きます。

▲これが飲める人の大量飲酒による肝臓障害の原因

日本人はアルコールを分解する酵素が少ないか欠損している人が多く、途中で分解されずに『アセトアルデヒド』という猛毒などが溜まってきます。

▲これが飲むと気持ち悪くなったり、顔が赤くなったりする原因

さらにこの『アセトアルデヒド』が肝臓にも障害を起こします。

▲これが飲めない人の肝障害の原因です

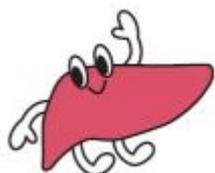
すなわち、

飲めるといって飲みすぎはダメ！

飲めない人が無理に飲むのはもっとダメ！

★★飲酒は、ストレス解消程度にほろ酔いくらいでやめましょう★★

また、アルコールと発癌は密接な関連があり、C型肝炎などの患者さんの発癌率を上げてしまいます。以前は『アルコール肝障害からは癌が出来ない』とか『アルコールを止めると発癌し易くなる』とか言われていましたが、全くのうそ！です。肝臓癌にならないためにもひかえましょう。



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

大豆の胚芽から抽出された「ソヤサポゲノールB」という物質がC型肝炎ウイルスを抑える効果があると研究により分かってきました。インターフェロンとの併用で有効性があるとのこと。

当院でもC型肝炎の新患対象に治験が開始されます。

(文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)